

## 北海道白老町立萩野小学校 「令和元年度 大運動会」

### 学校紹介

本校の児童数は、現在、全盛期の7分の1に減少している。地域自治は、一様に高齢化率が高い中、伝統を重んじながら若い世代のニーズに応じた取組を積極的に小学校と共に行っている。その中、子どもたちは、萩小スタンダードで、気持ちの良い挨拶などを地域の方を含めて交わしている。

### 取組概要等

#### 【取組概要】

多様性と調和をコンセプトにし、低学年は〈NHK〉2020応援ソング「パプリカ」に合わせたダンス。中学年はハードル走等を取り入れた運命走と「東京五輪音頭-2020-」に合わせたダンス。高学年は東京2020エンブレムを用いた応援旗を作成。支援学級は模擬聖火リレーの児童が考案したオリジナルのトーチを作成。

#### 【取組のねらい】

オリンピック・パラリンピックへの関心を高めること。今まで以上にスポーツを「する、みる、ささえる」きっかけにすることの2点を狙いとした。

#### 【創意工夫した点】

当日はトランペットのファンファーレで幕開けし、オリンピックのマーチに合わせて入場行進するなど随所にオリンピックの雰囲気を出した。開会式では、作成した応援旗とオリジナルのトーチを使い、通常学級と支援学級の児童が一つになって模擬聖火リレーを行い、最終走者が力強く選手宣誓をした。

#### 【取組結果や効果】

本取組により、選抜リレーの選手になれなかった子が、旗手や模擬聖火ランナーを務めるなど、スポーツが苦手な子の活躍の場となり、スポーツへの関心が高まったと感じる。

#### 【来年度以降の展開予定など】

来年度も全校児童でオリンピック・パラリンピックの機運を高められるような運動会にしたいと考えている。

## プログラムの様子



1・2年生による表現運動です。発表の最後にはオリンピックのシンボルを作りました。



高学年が作成した東京2020エンブレムを用いた旗を掲げて入場行進をしました。



開会式に、模擬聖火リレーを行いました。通常学級と特別支援学級の代表が模擬聖火をつなぎました。



中学年による表現運動です。「東京五輪音頭-2020-」に合わせて元気よく踊りました。

## 東京2020アスリート委員会からのコメント

通常学級と特別支援学級の児童が一緒になって、プログラムに参加できるように工夫している点が素晴らしかったと感じました。また運動が苦手な児童も活躍できる場が作られている点が良かったと思いました。

## 受賞のコメント

インクルーシブ教育を運動会の中にどのように組み込むか、また全校的な取組として各学年がどのような形で関われるか、の2つの視点をもってプログラムを構成しました。